

ID No.	2003
研究課題名	子宮頸部胃型腺癌の発生と進展に関するゲノム病理学的研究
研究代表者	前田 大地 (秋田大学・准教授)
研究組織	
受入教員	村上 善則 (東京大学医科学研究所・教授)
研究分担者	松原 大祐 (東京大学医科学研究所・客員准教授)
	種井 善一 (東京大学医科学研究所・特任研究員)
<p>研究報告</p> <p>本研究ではまず、多数例の子宮頸部腺癌を対象として、病理組織学的検討、免疫組織化学的検討を行った。約 65 例の子宮頸部腺癌のうち、形態学的に胃型腺癌と判断されたものは約 10 例、胃型腺癌が疑われたものは約 5 例あった。免疫組織化学的に、CLDN18 や HIK1083 といった胃型マーカーの発現の確認を行い、最終的に 11 例を胃型腺癌に分類した。これらの胃型腺癌の 4 割には LEGH の併存が確認された。CIN の合併は認められず、また、p16 のび慢性陽性所見が見られないことから、胃型腺癌は HPV 非関連病変であることが示唆された。我々はさらに子宮頸部の正常頸管腺と腺癌における CADM1 蛋白の発現の比較を行い、正常頸管腺では通常細胞膜に CADM1 の陽性所見が確認されるのに対し、頸部腺癌では膜の陽性像が失われることを見出した。胃型腺癌の約 6 割、非胃型腺癌では約 4 割が CADM1 の発現消失をきたしていた。また、CADM1 陽性を示す症例においても、発現は主に細胞質に認められた。これらの知見から、CADM1 の発現異常が子宮頸部腺癌の発生、進展に関与していることが示唆された。</p>	